

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二二七二〇七

1983年を振り返って 最も印象に残るできごとは

11支部の書記長に聞く

『日刊労働千葉』編集委員会は、一九八三年の闘いを最先頭で担いぬいた十一支部の書記長のみなさんに、次の三つの質問をしてみました。

1. 一九八三年を振り返って、次の質問にお答え下さい。
世界の出来事のうち、最も印象に残ることは何ですか。そのことについてどう思いますか。
2. 国内の政治情勢で最も印象に残る出来事は何ですか。そのことについてどう思いますか。
3. 国鉄内の問題で最も印象に残ることは何ですか。そのことについてどう思いますか。

津田沼支部 書記長 吉岡 一

決起しえなかつた中に、三里塚闘争の勝利性、優位性が示されたと言えます。

なったものであると思います。

① 十月、レバノンでの米・仏両軍指令部の爆破、アメリカのグレナダ侵略が一番印象にあります。

②

③

この事件は、レーガンの石油支配を狙う中東での侵略政策の破綻、追いつめられた帝国主義の凶暴さを示したとも言えます。

ロッキード田中判決とレーガン米日対応は、今の支配階級の腐敗が極限にまで行きついていること、政治危機のある事を示したと思う。この危機の切りをもかけたレーガン米日は、互いに総選挙・大統領選をひかえた茶番劇と言え、日米間の経済対立の非和解性を鮮明にしたと言えます。レーガンがアジア重視の世界戦略をだしてきた背景は、日本の膨大な経済力と軍事大国化・アジア侵略への牽制であり、日米は表面的には手を握りつつ本質的には非和解的対立を深め、そのことが世界戦争の火点となりつつあります。

昇給問題に示された動労「本部」革マルの腐敗と墮落です。この間、国鉄労働運動解体攻撃の先兵となってきた動労革マルがついに来るべきところまで来たと言えます。「処分者の3-8適用当然・労働処分者の回復昇給などをか言わん」と言うに至っては絶対に許すわけにはいきません。

レーガンの戦争まき散らし、経済で失ったものを軍事でとりかえずやり方は世界を三度目の戦争へ引きずりこむものです。しかし、世界各地での労働者人民の反撃のウネリは高まっており、われわれ、日本の労働者も、帝国主義打倒のため世界の人民との連帯の闘いがもとめられています。11・9レーガン来日阻止闘争にわれわれは決起しましたが、全国で三里塚を闘う人民以外

化の一番の近道だ。
国鉄再建監理委員会の発足
行政改革の主役として、国鉄の経営形態、長期債務の処理方法を探るためにスタートして半年。その中で我々国鉄に働く職員にとっては、今後の国鉄はどうなるのだろうかという先行きに対する懸念というか、不安が残る。国鉄の経営が危機的状況にあたるのは確かである。明治以来、先輩達が営々と築いてきた国鉄の伝統の火が消えるかどうかの瀬戸際にあることも事実だ。組合も面子にとられず、この難局を乗り切り頑張ってほしい。

蘇我支部 書記長 牧野 三好

③

② 田中判決と金権政治
刑事被告人が日本の政治を主導している。当然辞職すべきだ。三審制だからといってそのまま居直り、理屈をつけて居座るところに、金でものをはかる、金でものごとを律する体質が、いわゆる金権体質が自民党にある。田中問題はその象徴だ。田中の有罪判決後の中曽根首相の所感は、国民の感情を和らげ、攻撃を防ごうとするねらいがあったのだから、そうはいかない。総選挙で、田中を落とすことが政界浄

国鉄再建監理委員会の発足
行政改革の主役として、国鉄の経営形態、長期債務の処理方法を探るためにスタートして半年。その中で我々国鉄に働く職員にとっては、今後の国鉄はどうなるのだろうかという先行きに対する懸念というか、不安が残る。国鉄の経営が危機的状況にあたるのは確かである。明治以来、先輩達が営々と築いてきた国鉄の伝統の火が消えるかどうかの瀬戸際にあることも事実だ。組合も面子にとられず、この難局を乗り切り頑張ってほしい。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！

写真でみる動労千葉の闘い

② 第8回動労千葉定期大会



10月 10・5~6 第8回定期大会は、中野委員長を先頭とする新執行体制を確立した